

長生炭鉱の遺骨を故郷と家族の元へ

12.8 国との意見交換会へのご案内

日時：2023年12月8日（金）15時より

場所：衆議院第一議員会館 国際会議室



長生炭鉱水没事故犠牲者のご遺骨に共に心を寄せてくださる全国の皆様に、私たち「刻む会」の「遺骨発掘・返還」に向けた決意を述べ、来る12月8日の国との意見交換会に全力でご支援を賜りますよう訴えます。

直系ご遺族の高齢化も極限に達し逝去の報も増え、事故当時に母親のお腹にいて父親を知らず成長した娘、息子たちも81歳になり遺族にとって父親と対面できる時間はもはや残されていません。

本年、日韓両政府は、「過去の植民地支配に対する痛切な反省と心からのお詫び」を表明した1998年「日韓共同宣言」を再度両国の共通認識としました。であればこそ、朝鮮半島出身者の「遺骨問題」の早期解決が今求められています。

犠牲者は氏名も年齢も住所も家族も判明しているのにこれ以上放置することは、人道上からも許されません。戦争中に石炭産業で犠牲となったご遺骨を暗闇から発掘することは、どんな困難であろうとも日本政府の逃れられない責務です。

政府は、「遺骨の調査対象からはずすことはしない」としながら、技術と経費を理由に動こうとしません。私たちは「できない」ではなく、「どうしたらできるのか」を日本政府と具体的に詰めていきたいと願っています。現地を視察しないまま「できない」という政府の姿勢を改めさせましょう。この度の交渉には「韓国遺族会」も来日してその思いを訴えます。どうぞ、お一人でも多くの皆様が当日会場にかけつけてくださいますよう、またこの行動への募金（「12.8行動カンパ」と記載の上、下記振込先へ）をお寄せくださいますよう、心よりお願い申し上げます。

※なお、終了後、韓国から来日のご遺族との懇親会を予定しています。参加希望の方は、[必ず専用メール](mailto:yamamototoshiaki@nifty.com)（yamamototoshiaki@nifty.com）にて11月末までにお申し込みください（先着20名 限定 専用メール以外は受付不可）。

【主催】長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会(共同代表 井上洋子 佐々木明美)

<https://www.chouseitankou.com/>

事務局 755-0031 宇部市常盤町1-1-9 宇部緑橋教会内

[Tel&Fax] 0836-21-8003 [Mail] chouseitankou@gmail.com

郵便振替 01590-7-32405（「12.8行動カンパ」と記載してください）

意見交換会の様子はYouTube 配信予定です。YouTube 配信のURLはHPをご覧ください。

ちょうせいたんこう

長生炭鉱水没事故

床波海岸の海から突き出ている二本のピーヤ（排気・排水筒）は、かつて、この地に長生炭鉱という海底炭鉱があった名残です。

1942年2月3日朝、坑口からおよそ1km付近の坑道の天盤崩壊で海水が浸入し、坑内労働者183人が犠牲になりました。そのうち136人は日本が植民地支配した朝鮮半島から強制連行された、あるいは生活苦から渡日を余儀なくされた朝鮮人でした。

この事故は戦争遂行のために安全を度外視して石炭を掘り続け、「尊い命」が犠牲となった人災であると言わざるを得ません。今なお、183人の犠牲者全員の遺体は冷たい海の底に眠ったままです。

当時、事故の詳細は市民には知らされず、長い間、この事実は闇に葬られていましたが、市民の手で史実が明らかになり、1992年より事故の日に合わせて韓国から犠牲者遺族を招いて追悼集会（追悼式）を開催するようになりました。そして、2013年には念願の追悼碑を建立し、「長生炭鉱追悼ひろば」と名付けました。現在は、追悼式をこの追悼ひろばで行っています。

追悼ひろばにはピーヤ（排気口）を模した朝鮮人犠牲者追悼碑と日本人犠牲者追悼碑の二つの追悼碑があります。二つの追悼碑は二つで一つの追悼碑です。朝鮮人・日本人183人の犠牲者の名前が刻まれています。過去の歴史を反省し、乗り越えて日韓・日朝が仲良くなれるようにとの願いが込められています。



宇部市床波海岸の海から突き出ている
二本のピーヤ（排気・排水筒）



追悼ひろばにある追悼碑
ピーヤ（排気口）を模した朝鮮人犠牲者追悼碑
と日本人犠牲者追悼碑の二つで一つの追悼碑